



ひつさけ押寄来り大喧嘩とは掛し不栄者
 の少も恐れず當子と幸い切立られ其勢ひ不
 へき免きしに逃るもあれは同士討しと賜づく
 と何うぞ終不惣願せとありしうらうら
 後難と世世とあか
 あとび隠せし由然と
 彼熊五郎に一たび扱ひ置くる
 事再登りしに栄吉、對し
 男立すと

己の指七切
 栄吉を送りしもの
 街筋あり是を隨分使え栄吉の
 あら者ありはづれ女しき
 事も已らるはづれどあづ
 其つらうらうら
 昔くえうらうら世の人々
 貞似をせしる野蠻の
 笑まれざるに
 悔むむづ
 戒む

戒む
 ぶき